

平成 23 年度 京都府立加悦谷高等学校 学校経営計画(計画段階)

京都府立加悦谷高等学校

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 「ハイレベルな文武両道」を追求し、生徒一人一人の進路実現を図るとともに、社会に貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>2 「地域に根ざした学校」として、地域の信託と期待に応える学校づくりを目指す。</p> <p>3 生徒、自らがつくる「安心・安全」な学校づくりを目指す。</p>	<p>【成果】</p> <p>1 1 年次にて全てのクラスでの7校時を含む新たなカリキュラムの実施及び全学年にて新たな校時の実施をスムーズに行うことができた。</p> <p>2 地域人授業・キャリア教育講演会の実施や 160 通りの丁寧な進路指導により、100%の就職内定、20 名を超える国公立大学合格者など希望進路の実現に大きな成果を挙げることができた。</p> <p>3 80%近い部活動加入率の中で多くの部が活発に活動した。特に書道部やウエイトリフティング部など全国大会で活躍する選手を輩出した。</p> <p>4 「授業力向上」教職員研修、公開授業旬間などが定着し、授業力向上に向けての日常的な活動も見られた。</p> <p>【課題】</p> <p>1 生徒指導体制の強化を図り、安心・安全な学校生活の向上を目指す。</p> <p>2 課題を抱えた生徒に対しての、学習指導や生徒指導上の全学的な取組を実施する。</p>	<p>1 新たなカリキュラムを円滑に実施し、学習と部活動を両立させた「ハイレベルな文武両道」の学校づくりを推進する。</p> <p>2 加悦高式「キャリア教育」を展開し、160 通りの丁寧な進路指導を通じて、一人一人の進路実現を図る。</p> <p>3 PTA 活動・サタデー広場活動事業・ジラソーレなどの活動や広報活動を年間通じて行い、地域に開かれ、支持される学校づくりを推進する。</p> <p>4 生徒指導体制の強化と、規範意識の醸成、マナーの向上を図る。</p> <p>5 特別支援教育・人権教育のさらなる定着を図る。</p> <p>6 恒常的な「授業力の向上」に取り組み、課題に応じた研修等を行うことにより、指導力の向上を図る。</p> <p>7 日常的な点検活動を行い、安心・安全な学校施設・設備の充実を図る。</p>

分掌・教科の評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	<p>「進化加悦高！2011」の取組を通じて、さらなる学校の活性化をはかる。</p>	<p>カリキュラム(1・2年生7校時実施及び「特例校」の教育課程)の円滑な実施を行う。</p> <p>新教育課程の編成を行い、新しい学校像に見合った新しい教育内容を策定する。</p> <p>丹後通学圏(舞鶴を含む)の中学校に恒常的に広報・募集活動を行う。</p> <p>「体験セミナー」「類説明会」「学校公開」等において、中学生の参加目標値を達成すべく実施する。</p> <p>「サタデー広場活動事業」や小中学校への「出前授業」、「ジラソーレ」などの活動を通じて地域連携を強める。</p>		
	<p>情報及び危機管理体制を整える。</p>	<p>校務システムや校内PCの運用の適正化を図り、情報の管理が円滑に行えるようにする。</p> <p>各分掌間の連携を強化し、生徒指導や学校事故等に適切な対応ができるようにする。</p>		
事務部	<p>日々の業務を円滑に行う。</p>	<p>親切、迅速な対応に努め、円滑な事務手続きを行う。</p>		
	<p>学校経営方針に基づき予算を執行し、適正な会計管理を行う。</p>	<p>保護者、地域関係者、教職員との連携を進める。</p> <p>学校経営の状況を把握し、有効な予算の執行を行う。</p> <p>会計規則等を遵守し、適正な会計管理を行う。</p>		
	<p>校内の安全・安心な教育環境の整備に努める。</p>	<p>校内巡視を定期的実施し、危険箇所等を早期に発見する。</p>		

		施設、設備の修繕等に早期に対応する。			
教務部	「授業力向上」の取組を継続発展させる。	公開授業週間を3回実施し、授業改善につなげる。			
		外部講師による授業力向上のための研修会を年2回実施する。			
		研究授業月間を1回設定し、各教科が独創的な授業展開の追及を目標とした研究授業を行い、授業力を向上させる。			
		授業アンケート(年2回)を実施し、その結果を授業改善に役立てる。			
	教育活動全般のスムーズな進行を行う。	日常の授業から学校行事まで、充実させながら円滑に進行できるようきめ細かく対応する。			
		校務システムを校内に導入し、それを活用して成績処理を円滑に行う。			
自ら学ぶ意欲を高める意識づけとして、探究活動の充実を目指す。	プレゼンテーション大会を継続、発展させ、探究活動の充実を図る。				
第1学年部	基本的な生活習慣を確立させる。	生徒指導部と連携し、遅刻指導・頭髪服装指導等、校則遵守の指導を実施し、年間遅刻件数を100件以下にする。			
		生活実態調査・定期考査前学習時間調査等によって生徒の生活・学習の実態を把握し、必要に応じて適切な指導を行う。			
		生徒との面談および日常のコミュニケーションを綿密に行い、生徒の生活や心の状態をきめ細かく把握する。			
	高校生としての自覚あるHR集団を形成する。	日常の授業に集中するよう指導し、学習集団としての自覚を持たせる。			
		学校行事・学年行事に積極的に参加させ、一体感のある集団を形成する。			
	進路に関する意識づけを行う。	担任が、毎日放課後にHR教室の整備を行い、良好な環境を維持し、HR教室の状況からHR集団の実態を把握する。			
進路希望調査によって進路意識を把握し、進路学習によって進路意識を高める。					
第2学年部	基本的な生活習慣を確立させ、高校生としての自覚を促す。	進路希望者については、模擬試験・進学補習等に積極的に参加させる。			
		遅刻防止とベル着を徹底し、時間や期限に対する意識を高める。			
	基礎学力の充実と、将来を見通した進路指導を展開する。	挨拶、身だしなみなどの基本的なマナーを定着させるため、家庭や生徒指導部と連携して日常的に指導する。			
		教科担当と連携し、適切な課題を与え、家庭学習を習慣化させる。			
	HR活動、学校行事等を通して、人権を尊重した集団づくりをめざす。	日常の授業や補習などで基礎学力を充実させる。			
		学校行事、学年行事(修学旅行、学年球技大会等)を活用し、まとまりのある集団作りを行う。			
		日常的に生徒との面談を行う。各学期に1回は個人面談を行う。さら			

		に、夏季休業中に3者面談(担任・保護者・生徒)もしくは2者面談(担任・保護者)を実施し、家庭との連絡を密に取り、保護者と連携して生徒の指導にあたる。			
		人権学習やボランティア活動等を通し、人権を尊重し互いに助け合い、社会に貢献できる人格形成と集団づくりを行う。			
3年学年部	145名全員の希望進路実現を目標に学習指導、生活指導を行う。	進路希望調査や面談等を通して、希望進路の決定状況や希望の変化を細かく把握する。			
		進路指導部との連携を密にして、個に応じた計画的な指導を行う。			
	最高学年としての自覚を促し、規律ある生活習慣を確立させる。	遅刻の多い生徒や学力不振の生徒に対して、担任指導だけではなく、学年部長指導、保護者懇談を実施し、必要に応じて他分掌の協力を得ながら対処する。			
		計画的に、また必要に応じて2者面談や3者面談を実施し、生徒の課題や心の状態を把握する。			
	他者の気持ちを大切に作る集団づくりをする。	HR活動や生徒会活動、学校行事など、他者との関わりを持つ活動をとおして他者の気持ちを大切に作る指導を行う。			
		進路決定後の生徒に対して、学習や生活全般において気の緩みが出ないように、また進路未決定者への配慮ができるようHRや学年集会などで指導する。			
保健部	命を大切にし、健康で安全に生き抜く力を養成する。	支援を要する生徒に対し、早期にきめ細やかな対応を行う。			
		スクールカウンセラー活用において、関係文掌、保護者などと系統的に連携する。			
		保健学習を充実させ、性教育、薬物乱用防止教育など、実践的な知識を理解させる。			
		校内の安全点検を行い、学習環境を充実させる。			
	自主的な校内美化の促進に努める。	教職員、生徒一人一人が美化に努める。			
		ゴミ分別を通して資源の有効活用を推進する。			
生徒指導部	生徒の規範意識を高め、規律ある学校生活を送らせることにより、安心・安全な学校づくりをめざす。	校内巡視を徹底するとともに、面談等を通して生徒理解に努め、問題行動を未然に防止することにより、問題行動の発生件数を半減させる。			
		頭髪・服装の一斉指導と「服装指導週間」を学期に3回程度設定し、制服の適正な着こなしを指導するとともにあいさつの励行を促す。			
	部活動を充実させる。	部活動加入率80%以上を目指す。			
		部活動参加が低調な生徒は、顧問・担任等で面談を行い、参加を促す。			
	生徒会活動を充実させる。	学校祭等の生徒会行事に積極的に取組ませる。			

		ボランティア活動を充実させる拠点となる取組を活動に組み入れる。			
進路指導部	新たなカリキュラム実施に即応した恒常的な「授業力」向上の強化を図る。	1年次での基礎学力の大幅な伸長を目標に体制を整備する。 教務部等との連携を図り、予備校等の授業見学等を実施し、授業力向上の研修実施のための条件整備を行う。			
	加悦高式「キャリア教育」を展開する。「160 通り」の丁寧な進路指導」を実施し、温かくかつ厳しい「指導」を行う。	各学年部等との連携を密にし、個々の生徒の手だてを検討する。			
		様々な「気づき」の場面を与え「迫り」「ゆさぶる」、「160 通りの個別指導」を一層徹底し、国公立大学合格者 20 名以上を達成する。 「百年に一度の大不況」に対して「百年に一度の就職支援」や地元企業等への求人要請を進め、就職希望者全員の 9 月選考時の就職内定を成就する。			
	加悦高式「キャリア教育」を計画的に実施し、「社会に貢献する」人材を育成する。	4 年目になる「地域人授業」を更に継続・発展させ、「地域」を愛する心情を育む。また、この模様を与謝野町有線テレビにて放映し、「地域に開かれた学校づくり」を進める。			
		多様な各種ガイダンスを系統的に実施し、生徒の“学び”への意欲を喚起させる。世界を舞台に活躍した著名人による講演(「プロジェクト X」)を実施する。			
	適切な進路情報を幅広く収集整理し、生徒の就学を保障する手だてを行う。	体育系大学等の『学校案内』や『研究紀要』を整備する。「スポーツ健康科学系大学」ガイダンスを実施する。 「援護制度」等の紹介冊子を作成し、保護者へ周知徹底する。			
「魅力ある学校づくり」の一環として広報活動を充実・強化する。	「キャリア教育」に係る取組を報道各機関に周知し、新聞各紙及び与謝野町の広報誌に掲載する。また、本校の取組をホームページにも広く掲載する。				
総務企画部	学校と家庭が相互に理解を深め生徒の健全な成長を図る。	PTA 活動「きもの着付け教室」「染色教室」「学校祭バザー」等、継続発展させる。 「PTA だより」等、広報活動を通して地域に開けた学校作りを行う。 交通安全指導の活性化を行う。			
	自他の人権尊重を基本理念とし、共生意識を高揚させる。	各学年団と連携をとりながら段階的、系統的な人権学習を推進する。 与謝の海養護学校との交流会を継続、発展させる。			
	読書習慣を育成する。	「あおやぎ」の月 1 回の発行と親しみやすい館内整備に努め、読書意欲を喚起する。			
類体育系	推薦入試志願者 28 名以上を目標に広報活動をおこなう。	「類体育系だより」を年間 4 回(4 月、7 月、10 月、3 月)発行し、管内中学校 3 年の生徒に配付する。			
		「躍進」を年間 3 回発行して中学校に配布する。			
		6 月に管内中学校の教員を対象に説明会を実施するとともに中学校との連携を密にする。			

		10月に参加者50名を目標にして中学校3年生対象説明会を実施する。		
	類生徒全員の進級・卒業を目標に、落ち着いて授業に取り組ませるとともに部活動への定着を図る。	教科会議等を活用して 類生徒の実態を共有し、課題がある場合には早期に対応策をとる。 「部活動出席簿」を導入し、顧問と担任、体育科内の連携を行う。		
	競技力の向上を図るとともに、地域のスポーツ振興に寄与する。	日頃の部活動はもとより、1年、2年の生徒を対象にした「スポーツドクター」の授業、「栄養指導」などを活用し、部活動に対する意識改革を促す。 府立学校スポーツクラブ「ジラソーレ与謝」の活動を維持・発展させることにより、将来、本校への入学志望につながるよう指導する。		
国語科	「読む」「書く」「聞く」「話す」の言語能力を養い、国語力の向上を目指す。	様々なジャンルの評論文や小説にふれることで言語能力を高め小論文指導等を通して、論理的思考力を育成する。 対策プリント等を活用し、漢字検定の受検を促進する。		
	読書指導を積極的に行い、語彙力の向上と豊かな感性の涵養を目指す。	他分掌と連携し、オリエンテーションや読書感想文の指導等を行い、読書意欲を向上させる。 それぞれの授業の中で読書の時間を設定する。		
	教科指導力の向上を目指す。	定期考査作成にあたっての担当者間の意見交換や、公開授業、各種研究会への参加を積極的に行う。 教科会議等を利用して、共通の題材について作品研究をする時間を持つ。		
地歴公民科	生徒の実態・小教科の特色に応じた授業力の向上に努める。	定期考査の問題交換や校内での授業公開を積極的に進め、授業方法の改善を行う。 大学・中学と連携し、教員の研修を深めることで授業力を向上させる。		
	生徒一人一人の基礎学力を向上させる。	生徒の実態や変化を把握し、学力状況に応じた指導を工夫する。 定期考査直後に成績状況や授業姿勢などを交流し、学力向上の方法を探る。		
	自ら学び考える主体的な学習姿勢を育成する。	地理Aや現代社会の授業の中で、調べ学習や小論文を課すことにより、主体的な学習の場を作り出す。		
数学科	生徒の実態に即した教材を精選し、基礎・基本の習得を目指すとともに、発展的な問題に対し、自ら問題を解決しようとする姿勢を育成する。	適切な問題を数多く課すことで、基礎・基本を定着させる。 習熟度別講座では、特に発展の講座において応用的な問題を積極的に行う。進学を意識したクラスでは、入試問題や模擬試験での過去問を提示し、点検することで、進路を意識させた学習を展開する。		
	学年部と連携し、学習習慣を確立させる。	個々の生徒の目標に応じた課題を与える等、学習習慣を確立させる。さらに、自ら学ぶ姿勢・態度を養う。		
	基礎学力が不足している生徒への指導を強化する。	過年度追認への指導を強化し、単位を修得させる。		

		長期休暇中や定期考査前に呼び出し指導をするなど、成績不振生徒に対して補充指導を効果的に行う。		
理科	教科の指導力を向上させる。	研究授業や授業見学期間を利用して、授業の課題を出し合う。また、プリント教材の共有や、授業経験の交流を行う。		
		実験(実習)授業について、実験助手とともに予備実験を行い、実験方法の改善や事故が起こらない方策を考え、実験が安全で効果的なものになるよう工夫する。		
		研修会や情報収集媒体(書籍、テレビ、インターネットなど)から情報を収集し、各教員の知識や教養を高める。また、その情報を交流して授業に使っていく。		
		授業規律が保たれるよう、目配りや声かけを行う。		
生徒の様子を知る。	小テストや宿題の提出などを通して、生徒の学習面での状態を探り、必要な指導(補充指導等)を行う。			
	教科会議でクラスの状況を交流し、課題がある場合、対策を行う。			
生徒に、科学的なものの見かたや機器を扱う技能を身につけさせる。	標本の観察や機器操作を行う授業、演示実験を伴う授業を行い、現象の共通性や規則性に気付かせるとともに、技能を身につけられるような授業を行う。			
保健体育科	生涯にわたり、健康で安全な基盤を育成する。	保健学習などを通して、健康で安全な生活を送る知識を身につける。		
	自主的活動を实践させる。	体づくり運動を継続し体力を向上させる。		
		積極的に授業に取り組む姿勢を養う。		
類生徒の学習、部活動を充実させる。	自己の目的と特性を理解し、選択授業など自ら考え活動する。 基本的な生活習慣、特に授業態度の向上を目指す。 学力と競技力の向上を図り、幅広い進路を実現する。			
芸術科	音楽の基礎力を充実させる。	歌唱・読譜力・理論の学習を通して基礎力を充実させる。		
	歌唱力分野における発声技術と表現力を充実させる。	生徒個人の発表を通しての相互評価とソフトの観賞合評会を実施し、歌唱表現への理解を深めさせる。		
	意図に応じた創造的な表現の技能を高めさせる。	参考になる作品・書籍・ポスターなどを活用し、個々の表現方法の幅を広げる。		
	生涯にわたり美術を愛好する精神と鑑賞力を養う。	作品の鑑賞時間を設け、お互いの個性を尊重し認め合う中で、作品を作り出す喜びを理解させる。		
	書の基礎的技法と鑑賞力を養う。	古典臨書を通して技法を習得し多様な美を鑑みる。		
美を創造、観賞することにより豊かな感性、人間性の育成につなげる。	日常的に展示、鑑賞できる教材、および生徒の内面を引き出せる教材を精選し、表現する喜びを理解させ、生涯にわたり書を愛好する心を育成する。			
英語科	言語・文化に対する理解を深める。	生徒の実態をふまえた教材を精選し、基礎基本の修得をめざす。		
		適切な課題を与えて、予習・復習の習慣を身につけさせる。		

	英語のコミュニケーション能力を高める。	<p>チームティーチングの授業を活用する。</p> <p>多くの英文を与えることにより、必要な情報を適切に読み取る能力の獲得をめざす。</p> <p>実用英語技能検定試験の受験を奨励し、最終合格率60%をめざす。</p>				
家庭科	生活を創造するために自己の意思決定に基づき、責任を持って行動できる力をつける。	<p>多様な価値観に触れ、自分の生活について考えさせる。</p> <p>実験・実習を通して、生活に必要な知識・技術を修得させる。</p>				
	主体的に学習する力をつける。	<p>準備物点検を実施する。</p> <p>作品・レポートの期限内提出を徹底する。</p>				
	授業力の向上を目指す。	研修会、ブロック会議等から情報を収集し、活用していく。				
情報科	高度情報化社会に対応できる情報活用能力(情報リテラシー)を育成する。	<p>情報メディアを通して、主体的に自分の意見等を的確に表現できるよう、授業内容を工夫する。</p> <p>授業や総合的な学習の時間を通して、情報モラルなど倫理観を育成する。</p> <p>生徒一人一人の理解状況を的確に把握して、きめ細かな指導を推進するため、担当者の連携を行う。</p>				
	コンピュータ及びコンピュータ教室の使用を円滑に行う。	日常的な使用規律を確保し、管理や機器の安定稼働を行う。				
商業科	ビジネスの諸活動における情報の意義や役割を理解させる。	ワード、エクセルなどのアプリケーションソフトが使いこなせるようになる。				
	コンピュータに関する知識や技術を学び、情報の収集、整理や加工を行って、それを活用する知識を身につけさせる。	ワープロ検定を受験させ、合格させる。				
次年度への改善の方向性						